

製品名: InsP5 2-キナーゼウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12631**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	56kDa

抗原情報

遺伝子名	IPPK
別名	IPPK; C9orf12; Inositol-pentakisphosphate 2-kinase; IPK1 homolog; Inositol-1; 3,4,5,6-pentakisphosphate 2-kinase; Ins(1,3,4,5,6)P5 2-kinase; InsP5 2-kinase
遺伝子 ID	64768.0
SwissProt ID	Q9H8X2
免疫原	抗血清はヒト IPPK 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 11-60

背景

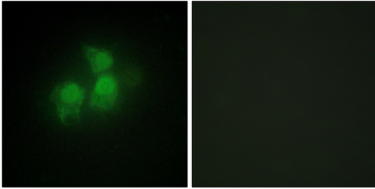
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、イノシトール-1,3,4,5,6-ペンタキスリン酸の2位をリン酸化してイノシトール-

1,2,3,4,5,6-ヘキサキスリン酸 (InsP6) を生成するキナーゼです。InsP6 は、DNA 修復、エンドサイトーシス、mRNA の輸送を促進するなど、様々な機能を有しています。 [RefSeq 提供、2010 年 11 月],触媒活性: ATP + 1D-ミオイノシトール 1,3,4,5,6-ペンタキスリン酸 = ADP + 1D-ミオイノシトールヘキサキスリン酸。 ,ドメイン: EXKPK モチーフは、ファミリー-1 および 2 の両方のイノシトールペンタキスリン酸 2 キナーゼで保存されています。 ,機能: Ins(1,3,4,5,6)P5 の 2 番目の位置をリン酸化し、Ins(1,2,3,4,5,6)P6 (InsP6 またはフィチン酸) を形成します。 InsP6 は、mRNA 輸出、非相同末端結合、エンドサイトーシス、イオンチャネル制御など、多くのプロセスに関与しています。また、TNF- α 誘導性アポトーシスから細胞を保護します。 ,類似性:IPK1 タイプ 2 ファミリーに属します。 ,組織特異性:普遍的に発現し、心臓、脳、精巣、胎盤で高い発現を示します。 ,

研究分野

イノシトールリン酸代謝;ホスファチジルイノシトールシグナル伝達系;

画像データ



IPPK 抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。